

5月歴史文化クラブ研修会・報告
馬見古墳の主を求めて
 (馬見古墳群と新沢千塚古墳群を歩く)

坂東 久平

5月14日(火)歴史文化クラブの研修会を行った。今回は、馬見古墳群(馬見丘陵にある大小約1000基の古墳群)を歩き、4世紀から6世紀にこの地を支配した古墳の主について考えた。次に、5世紀から6世紀に造営された群集墳の新沢千塚古墳群(約600基)を訪問し、古墳群の中にある橿原市博物館で有名な126号墳の金製品を見学した。

お天気は曇り、参加者は25名、生駒交通マイクロバスで西大寺駅を8時30分に出発した。

最初に北群にある川合大塚古墳を訪問した。古墳は5世紀の前方後円墳で、全長215mで周濠を持つ美しく大きな古墳であった。全員で墳頂に登り巨大さを実感した。



次は、河合町文化財展示室で、町内の馬見古墳群から出土した埴輪の実物などに触れることができた。

馬見丘陵公園に移動し、中央群の乙女塚古墳に行った、古墳は5世紀の全長130mの帆立貝形前方後円墳で、国内第2位の大きさである。周囲を歩き、古墳をバックに全員集合の写真を撮った。



空模様が怪しく、早めの昼食を公園館前の広場で済ました。案の定、雨が降り出したので、予定のナガレ山古墳を省略し、バスで巢山古墳に向か

った。

巢山古墳は4世紀末の前方後円墳で、全長220mで張出や周濠を備えており、馬見古墳群の盟主と目されている。張出部からは死者の霊を運ぶとされる水鳥の埴輪や権威の象徴とされる蓋(きぬがさ)の埴輪などが出土した。大王級の墓とみられている。

三吉石塚古墳は小さな帆立貝形前方後円墳であるが、保存整備が終わり貼り石や円筒埴輪など、築造時の姿がわかる。古墳の上から、隣の新木山古墳(全長200mの巨大古墳)を眺めることができた。



バスで、新沢千塚古墳群に向かった。まず、橿原市博物館で、松木学芸員から古墳群について説明を受けた。小さいものは全長5mから最大は全長40mの前方後円墳まであり、被葬者は不明であるが、中には渡来人とみられるものもある。特に126号墳は22 x 16mの長方形墳であるが、出土品は大変豪華で、古墳のサイズに不釣り合いなものである。ガラス製碗・皿や金銀製の装飾品などで、被葬者は百濟王朝末裔のお姫様との説もある。



雨は小降りであったが、希望者は古墳群の散策に出掛けた。遊歩道は舗装されており、小さな古墳群の間を抜けて、126号墳や81号墳を見て、博物館に戻った。



バスの車中と巢山古墳休憩所で、古川さんと坂東から馬見古墳群について解説をしたが、古墳の主は謎のままであったようである。

予定より早く、16時過ぎに西大寺駅に帰着した。
 (担当世話役 古川・坂東)